

令和 4 年 6 月 6 日現在

機関番号：32206

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H04471

研究課題名(和文)外国人の出身国および我が国のECD事情のデータベース作成

研究課題名(英文)Creating a database of circumstances of ECD (Early Childhood Development) in foreigners' countries of origin and in Japan

研究代表者

森山 ますみ (MORIYAMA, MASUMI)

国際医療福祉大学・福岡看護学部・准教授

研究者番号：90565722

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,300,000円

研究成果の概要(和文)：「外国人の出身国および我が国のECD(Early Childhood Development)事情のデータベース」を作成するとともに、外国人母親・保健師を対象に情報探索行動の調査を実施した。調査結果に基づき、子どもの保護者と保健医療福祉職の両方に「日本で暮らす外国をルーツに持つ子ども・子育て支援サイト」という名称のサイトを開設した。同サイトでは日本語、それらを英語・中国語・インドネシア語・タガログ語・ベトナム語・ベンガル語・ネパール語・ミャンマー語・ポルトガル語・西語に翻訳した情報および各国の情報を掲載している。サイトの有用性を把握するために、アクセス数・ユーザー評価の検証を進めている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ECDの目的は、受胎期から就学までの乳幼児やその保護者へのケアと教育活動を通して乳幼児の身体的・知的・社会的・情緒的発達を促すことである。外国にルーツを持つ子どものECD推進には、文化や言語上の障壁を克服する具体的方策の提供が不可欠である。我々は、日本のECD関連情報と外国人の出身諸国のECD関連情報を収集して整理し、それらを彼らの母語と日本語の両方で入手できるウェブサイトを開設した。母語で知識を得る手段の提供によって乳幼児の保護者のケアの質の向上と安心感の増大に寄与し、かつ、保護者を支援する任を負う保健医療福祉関係者に出身国の事情を得る手段を提供したことによって支援の質の向上に貢献した。

研究成果の概要(英文)：We created a database of circumstances of ECD (Early Childhood Development) in foreigners' countries of origin and in Japan, and conducted a survey about information-seeking behaviors by foreign mothers and health nurses, while continuing efforts to collect information on ECD in Japan and overseas. We have opened a website titled as "Children and Child-rearing Support for Those Living in Japan with Roots in Foreign Countries (WEB, hereafter)". Our WEB provides ECD-related information that will help both parents/caretakers and health/welfare workers. Texts in English, Chinese, Indonesian, Tagalog, Vietnamese, Bengali, Nepali, Burmese, Portuguese, and Spanish are available on our WEB. The number of accesses and the results of users' evaluation are being analyzed to estimate the WEB's effectiveness.

研究分野：地域保健

キーワード：ECD 外国人小児 外国人母子支援 外国人出身国情報

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

ECD ( Early Childhood Development ) は、受胎期から初等教育就学前までの乳幼児やその保護者に対して行うマルチセクターのケアと教育活動を通して、乳幼児の最善の全人的発達、すなわち身体的、知的、社会的、情緒的発達を包括的に促すものである<sup>1)</sup>。

在留外国人は 1995 年末の 136 万人から 2015 年末 2,232,189 人<sup>2)</sup>と、この 20 年で 100 万近く増加している。2015 年の外国籍出生数は 14,314<sup>3)</sup>、6 歳以下の乳幼児の総数は 102,805 人<sup>2)</sup>である。今後も、人口減少に伴う労働力不足を補うため外国人数は増加し、それに伴い、乳幼児の数の増加が予測された。日本人の乳幼児死亡率出生千対 1.90<sup>3)</sup>に対し、外国人は出生千対 2.86<sup>2)</sup>であることを見ても、外国人がさまざまな要因から日本の保健医療保険制度の恩恵を受けていないことが窺われる。

申請者らのグループは、「外国人小児の発達の遅れと発達障害の早期発見・早期支援モデルの構築(2014～16年 科学研究費助成事業 挑戦的萌芽)の研究」を行って、外国人乳幼児の発達の遅れや発達障害の早期発見および早期支援の現状と課題を探索した。その結果、早期発見・早期支援を実現するための外国人への支援体制が十分に構築できていないことが明らかになった。外国人の ECD ( Early Childhood Development ) を推進し、外国人乳幼児の健やかな成長を促すためには、保健指導の担当者と受け手が利用できる関連情報のデータベースは喫緊の課題であった。

1) 国際協力総合研修所(2008). Early Childhood Development の支援に関する基礎研究

[http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC\\_and\\_JBICI-Studies/jica-](http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/kyakuin/pdf/200408_02_02.pdf)

[ri/publication/archives/jica/kyakuin/pdf/200408\\_02\\_02.pdf](http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/kyakuin/pdf/200408_02_02.pdf) (アクセス日 2016/10/7)

2) 法務省 HP.在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表 2015 年末

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=00000115023> (アクセス日 2016/10/7)

3) 厚生労働省 HP

[http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei15/dl/11\\_betsu.pdf](http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei15/dl/11_betsu.pdf) (アクセス日 2016/10/7)

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、外国人の乳幼児の健やかな成長を支えること目指し、ECD ( Early Childhood Development ) 事情のデータベース作成である。以下の二つである。ひとつは、外国保護者が妊娠・出産・子育てに関する情報にアクセスできる環境を整えることである。もうひとつは、保健師をはじめとする保健医療福祉教育関係者等の外国人への支援に役立つ資料が利用できる環境を整えることである。

## 3. 研究の方法

上記の目的のため、1) ECD の指標の作成、2) 在留外国人の出身国における ECD 事情の実態調査、3) 国内の ECD に関する情報収集、4) 乳幼児期の子どもを持つ外国人母の妊娠・出産・子育てに関する情報探索行動についての実態調査、5) 保健師による外国人出身国の ECD に関する情報収集行動の調査、6) ECD 事情データベースに基づいたウェブサイトの開設、7) ウェブサイトの利用度と有用性の検証、を行った。

## 4. 研究成果

### 1) ECDの指標の作成

デルファイ法による質問紙調査に回答者は14自治体、保健師10名(保健師経験の平均13年)、看護師1名(看護師経験7年)、他2名、無記名1名であった。

「我が国の ECD 事情のデータベース-外国人保護者用」に包含する指標のフレームワークの適切性は、非常にそう考える 3 か所、そう考える 4 か所、どちらともいえない 2 か所、無記名 5 か所であった。

## 2) 在留外国人の出身国におけるECD事情の実態調査

インドネシア、中国、ブラジル、ネパール、バングラディッシュ、フィリピン、ベトナム、ペルー、ミャンマーに関する妊娠・出産・子どもの健康に関するデータはWHOやUNICEFおよび現地有識者よりデータを収集した。インドネシア、中国、ブラジルには、現地訪問、ネパール、バングラディッシュ、ペルー、ミャンマーは国内より現地の協力者に依頼し、ECDベースにしたライフステージ別サービス、保健省や自治体が住民に妊娠・出産・子育ての情報を提供しているサイトに関する情報等の情報を収集した。フィリピン、ベトナムの現地医療職に依頼したが、Covid-19 パンデミックの影響で協力を断られた。

## 3) 国内の ECD に関する情報収集

「在留外国人総数上位 100 自治体」のウェブサイトアクセスし、ウェブサイトにおける多言語対応の有無、多言語による情報提供の方法と範囲、対応言語を調査した。100 自治体すべての公式ウェブサイトが多言語対応を実施しており、多言語による情報提供の方法としては「自動翻訳機能へ誘導または表示」、「外国語で作成されたページへ誘導または表示」が多かった。対応言語は、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語の順で多く、「やさしい日本語」は 19 件であった。

## 4) 乳幼児期の子どもを持つ外国人母の妊娠・出産・子育てに関する情報探索行動についての実態調査

乳幼児を持つ外国人母を対象に Web の自記式質問紙調査を行い、量的・質的分析を行った。回答数は 147 で、内訳として、出身国別では、ブラジル 60、中国 52、その他 35 であった。日本語能力別では、「よく/ある程度できる」110、「あまり/全くできない」37、利用機器は、スマホ 125、PC98、タブレット 82、利用する情報源は、公的機関提供の情報サイト 97(日本語 48、母国語 57、その他 10)、公的機関以外の団体が提供する情報サイト 73(日本語 29、母国語 61、その他 13)、SNS47(日本語 21、母国語 46、その他 7)、その他、書籍・雑誌 61、広報機関紙 28、TV 34、ラジオ 1、新聞 8 であった。人的情報源としては、友人を挙げた人が 88 と最も多く、病院の医療従事者 46、親(夫・自分)45、知り合い 37、夫 36、職場の同僚・先輩 35、保健センター職員(保健師等)33、市町村の担当部署職員 26、保育所・幼稚園の職員 12、その他 3 であった。下のグラフは、子育てに関する事柄についてどの程度調べたかという問いに対する回答を示したものである。

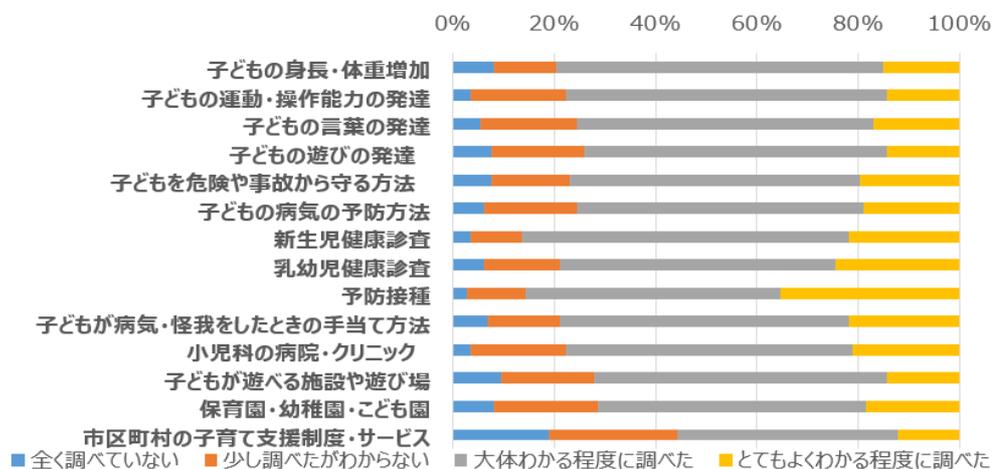


図1 妊娠・出産に関する情報探索行動

いずれの項目においても、「少し調べたがわからない」という回答が10～20%あり、「全く調べていない」と合わせると10～40%強が十分な情報を得られないままであるということが分かった。母子保健サービスでは、「母子健康手帳の存在を知らない」5、「妊婦健康診査の存在を知らない」11、「日本で妊婦健康診査を受けていない」13、「両親学級・母親学級を受けてない」67、「新生児健康診査を知らない」4、「乳児健康診査を知らない」10、「幼児健康診査を知らない」11、「子どもの予防接種を知らない」1、といった結果だった。また、自由記述には、「情報収集が困難」32、「情報が欲しい」47、「医療職とのコミュニケーションの問題がある」6といった記述があり、言語的障壁によって母子保健サービス情報へのアクセスができずサービスを受けられていない事例が多数あることが分かった。

## 5) 保健師による外国人出身国のECDに関する情報収集行動の調査

外国人出身国のECDに関する保健師の情報収集行動について、外国人集住自治体の保健センター217か所に協力をお願いして調査票等を送り、30の回答を得た。

保健師による外国人の出身国の妊娠・出産・子どもの健康、保健医療福祉教育サービス、文化的特徴に関する情報収集は、ばらつきがあること、様々な情報源が利用されていることが分かった。

## 6) ECD事情データベースに基づいたウェブサイトの開設

ウェブサイト「日本で暮らす外国にルーツを持つ子ども・子育て支援サイト(以下、WEB)」を令和2年4月26日に開設した。ウェブサイトの特長は4つ： ECD データベースに基づき、研究者らによる在留外国人の主要出身国の調査の結果と国内の諸団体・組織が提供している情報を整理して作成、子どもの保護者と保健医療福祉職の両方に有用情報を提供、「保健医療福祉職の皆様」のページには、外国人が母語で読める資料と在留外国人の出身国の情報の入り口の設定、「子どもの保護者様」の案内では、英語・中国語・インドネシア語・タガログ語・ベトナム語・ベンガル語・ネパール語・ミャンマー語・ポルトガル語・西語の10言語で情報提供、である。



### 日本で暮らす外国にルーツを持つ 子ども・子育て支援サイト

このサイトを立ち上げた目的は、日本で暮らす外国にルーツを持つ子どもやその母親、家族を支援するための情報を提供することです。外国にルーツを持つ子どもが健やかに成長することが重要であるからです。

お母さまをはじめとする家族の皆様には子育てに関する情報、保健医療福祉職の方々には支援に役立つ情報を載せています。子育てやその支援にご活用ください

子どもの保護者の皆様		子どもと保護者を支援する 保健医療福祉職の皆様
英語 English	中国語 中国語	
ポルトガル語 Português	スペイン語 Español	
タガログ語 Tagalog	インドネシア語 Bahasa Indonesia	
ベトナム語 Tiếng Việt	ビルマ語 (ミャンマー) မြန်မာစာစကား	
ベンガル語 (バングラデシュ) বাংলা	ネパール語 नेपाली भाषा	
やさしい日本語 やさしい日本語		

図2 日本で暮らす外国にルーツを持つ子ども・子育て支援サイトの入り口

「保健医療福祉職の皆様」のページは、1)外国人が母語で読める資料と 2)在留外国人の出身国の情報から成り、1)には、多言語生活情報、母子健康手帳、すこやかな妊娠と出産のために、ママとあかちゃんのサポート：妊娠・出産についての情報、予防接種スケジュール、親と子どもの健康チェック(問診票)、子どもの発達などの情報を提供している。2)には、発表者らの調査結果に加え、多文化医療サービス研究会の「各国の医療と文化に関するレポート」等の情報を提供している。「子どもの保護者様」のページには、上記の1)の中で保護者が活用する資料を英語・中国語・インドネシア語・タガログ語・ベトナム語・ベンガル語・ネパール語・ミャンマー語・ポルトガル語・西語に翻訳し掲載した。

広報用に 10 言語でのウェブサイト名および QR コードを入れたチラシを作成した。令和 2 年 8 月に 1741 の自治体に WEB のチラシを 1741 部配布した。希望した 126 自治体に 1,390 部、外国人集住自治体保健センター 461 か所に 4,610 部、研究協力施設 83 か所(国際交流センター保育園・幼稚園,外国人支援団体)855 部、合計 21,141 部のチラシを配布した。

### 7) ウェブサイトの利用度と有用性の検証

令和 2 年 4 月 26 日～令和 3 年 7 月 31 日において、全ページビュー数 53839、平均ページ滞在時間 34.37(秒)であった。保健医療福祉職向けの外国人が母語で読める資料の閲覧数では、多言語生活情報、子どもの発達、「新生児訪問及び赤ちゃん訪問」訪問員用コミュニケーションツール、子育てチャート、予防接種スケジュールの順で多かった。保護者向けの外国人が母語で読める資料の閲覧数では、多言語生活情報、予防接種スケジュール、子どもの発達、子育てチャート、ママとあかちゃんのサポートシリーズ、母子健康手帳の順で多かった。

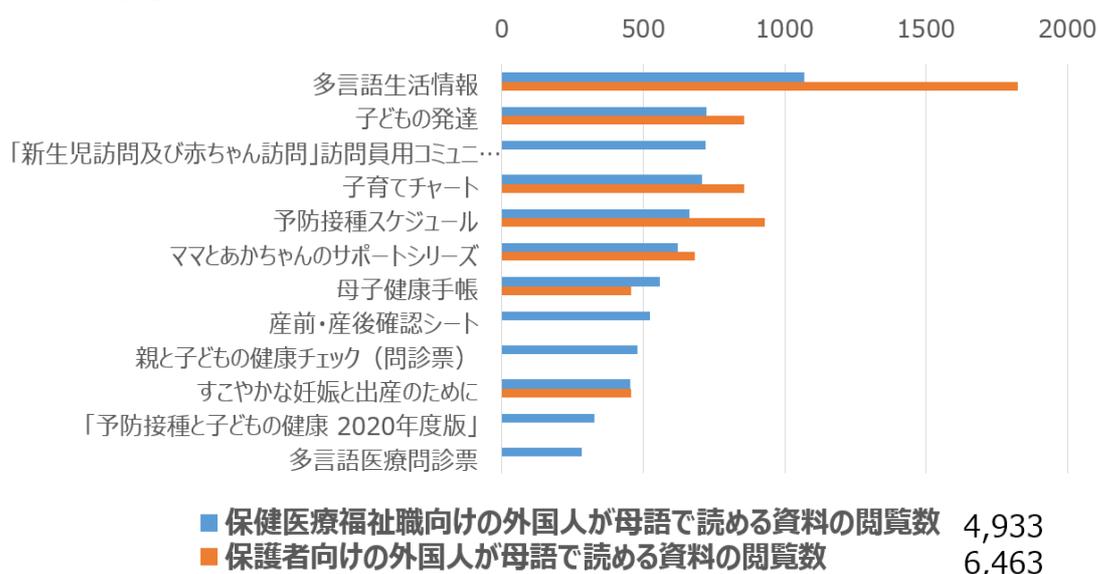


図 3 母語で読める資料の閲覧数

閲覧数を自治体別に見ると、多い順に、横浜市、大阪市、名古屋市、新宿区、港区、さいたま市、千代田区、福岡市、世田谷区、京都市であった。

ユーザー評価には 11 の回答(英語 6、ネパール語 4、ベトナム語 1)あり、「文字の読みやすさ」と「内容のわかりやすさ」は全員が「わかりやすい」と評価し、「ほしい情報が見つかったか」には 11 名中 9 名が簡単、2 名がどちらかと言えば簡単と評価していた。

問い合わせに書かれていた希望に対して、広報チラシ、親とこどもの健康チェック(問診票)の日本語バージョンもウェブサイト上で掲載した。ウェブサイトの有用性を把握するために、アクセス数・ユーザー評価の検証を継続している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Mayumi Mizutani, Masumi Moriyama, Heri Sugiarto, Riyanto, Maftuhah, Harumi Bando	4. 巻 1(1)
2. 論文標題 Challenges and assets for promoting early childhood development in Indonesia: A health statistics review from a community health perspective	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Community Health Nursing Research	6. 最初と最後の頁 22-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.29253/achnr.v1i1.36	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

日本で暮らす外国にルーツを持つ子ども・子育て支援サイト <a href="http://ecdsuishin.com/">http://ecdsuishin.com/</a>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	アリフ・ウル ハサン (HASAN ARIF) (00570368)	国際医療福祉大学・医学部・助教  (32206)	
研究分担者	水谷 真由美 (MIZUTANI MAYUMI) (10756729)	三重大学・医学系研究科・准教授  (14101)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石川 勝彦 (ISHIKAWA KATSUHIKO) (30714779)	山梨学院大学・学習・教育開発センター・特任准教授  (33402)	
研究分担者	謝 海棠 (SHA KAIDOU) (40807567)	国際医療福祉大学・保健医療学部・准教授  (32206)	
研究分担者	荒木田 美香子 (MIKAKO ARAKIDA) (50303558)	川崎市立看護短期大学・その他部局等・教授  (42729)	
研究分担者	五味 麻美 (GOMI MAMI) (70510246)	川崎市立看護短期大学・その他部局等・講師  (42729)	
研究分担者	LE TRAN NGOAN (LE TRAN NGOAN) (70810878)	国際医療福祉大学・医学部・教授  (32206)	
研究分担者	吉野 八重 (YOHINO YAE) (80433720)	上智大学・総合人間科学部・准教授  (32621)	
研究分担者	亀井 縁 (KEMEI YUKARI) (90624487)	四天王寺大学・看護学部・准教授  (34420)	
研究分担者	BABAYEV TAMERLAN (BABAYEV TAMERLAN) (30810874)	国際医療福祉大学・医学部・助教  (32206)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石川 陽子 (ISHIKAWA YOUKO) (40453039)	東京都立大学・人間健康科学研究科・准教授  (22604)	
研究分担者	カティワダ ザヌカ (KHATIWADA JANUKA) (90823104)	国際医療福祉大学・医学部・助教  (32206)	
研究分担者	二田水 彩 (NITAMIZU AYA) (40757720)	国際医療福祉大学・成田看護学部・助教  (32206)	
研究分担者	NWE・NWE OO (NWE NWE 00) (20810873)	国際医療福祉大学・医学部・教授  (32206)	追加：2019年8月28日
研究分担者	因 京子 (CHINAMI KYOUKO) (60217239)	日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・教授  (37123)	
研究分担者	小川 正子 (OGAWA MASAKO) (70601201)	国際医療福祉大学・成田看護学部・教授  (32206)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関